

### 令和3年度施政方針について

高子 秀明



〔質問〕第六次白石市総

合計画基本構想・基本計画に掲載された、まちづくりに対する市民意識アンケート調査結果を見ると、「満足度・重要度」の項目において、「働く場」「地域の医療」「交通の便」「子育て環境」などの8項目については、満足度が低く重要度が高くなっており、市民生活の不安要素となっている。手厚い施策を早急に行うべきと考えられるが、市長の見解を伺う。

画の策定に当たっては、アンケート調査による市民意識、本市の特性や課題などを踏まえ、施策を掲げている。満足度が低く、重要度が高い8項目の施策については、着実な推進に努めることで、市民の満足度の向上につながることを考える。

〔質問〕市長は施政方針

において「少子高齢化による税収の減少や社会保障費の増加、公共施設等のインフラ更新など、不安定な財政状況に陥ることが懸念され、地域社会で発生する課題の解決に向けて行政がすべてを対応することとは困難になっている」とする一方、「令和3年度からの10年間で、市は大きく発展する」と掲げている。

この「困難」と「大きく発展」、相反する言葉は整合性が取れているのか、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市のみならず、地方財政は二層厳しさを増すことが予想され、地域社会での課題解決を行政がすべて対応することは困難であると考えられる。

第六次白石市総合計

この「困難」と「大き

な発展」、相反する言葉は整合性が取れているのか、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市のみならず、地方財政は二層厳しさを増すことが予想され、地域社会での課題解決を行政がすべて対応することは困難であると考えられる。

第六次白石市総合計画の重要戦略の一つとして、地域づくりへの支援を通じ、地域による主体的な活動を牽引するリーダーの育成に取り組み、地域住民主体の地域づくりを推進することが重要と考えている。当然、地域に任せ、行政が何もしないのではなく、必要な支援は引き続き行う。

10年間で、計画に掲げた分野目標や重点戦略を着実に推進することで、市は大きく発展するものと考えていることから、「困難」と「大きな発展」という言葉の整合性は取れていないと考えている。

### 令和3年度施政方針について

松野 久郎



〔質問〕令和3年度の予算編成に当たって、市長の所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕新型コロナウイルス感染症による経済の低迷により、市税で約1億5千万円の収入減が見込まれる一方、令和3年度は新たな総合計画である第六次白石市総合計画がスタートする。

これからの白石市を創っていくための節目の年であることから、大変厳しい予算編成となつた。

〔質問〕学校教育の充実について、これまでの効果を踏まえ、今後の具体的な取り組みを伺う。

〔答弁〕〔教育長〕授業改

性を高め、地区での決定を尊重する観点から、審査会を廃止する。

地区が選定した事業への交付を尊重することで、住民自治力を育みたいと考えている。

また、交付金活用団体の事例発表や、ホームページでの公表を行なっていく。

〔質問〕商店街の活性化について、どのように取り組み、賑わいを創出していく考えか伺う。

〔答弁〕〔市長〕地元商店組合などが行う事業に対する助成金の交付や、商店街のイベントなどに引き続き支援をしていく。

また、中心市街地の空き店舗などを活用した新規出店の際に、改装費の補助金を交付するなど、事業者への支援を行い、中心市街地の商店活性化につなげていきたい。